

14 年 金 制 度

(1) 国民年金

(令和3年度予算額 4,985千円)

高齢期における所得については、公的年金の占める割合がその大半を占めており、高齢化社会が進むことに伴い、公的年金の果たす役割が、ますます大きくなっています。

国の制度である国民年金業務においては、国や日本年金機構との協力・連携を推進し、市民の利便性の向上や制度周知に努めています。

○被保険者数の推移 (人)

	30年度	元年度	2年度
第1号被保険者	11,186	10,803	10,575
第3号被保険者	4,177	3,939	3,703
1号任意加入者	13	12	10
高齢任意加入者	68	63	65
合計	15,444	14,817	14,353

○年金受給の状況

	29年度		30年度		元年度	
	人員	金額(円)	人員	金額(円)	人員	金額(円)
老齢年金	1,253	586,588,863	1,044	491,314,431	864	406,979,968
通算老齢	697	146,409,247	600	125,145,374	496	104,615,361
老齢基礎	40,783	27,788,347,122	41,238	28,211,161,271	41,601	28,585,608,799
老齢年金計	42,733	28,521,345,232	42,882	28,827,621,076	42,961	29,097,204,128
障害基礎	2,468	2,121,178,650	2,475	2,120,550,975	2,461	2,106,960,875
障害年金	107	92,541,875	100	86,502,300	97	84,055,775
障害年金計	2,575	2,213,720,525	2,575	2,207,053,275	2,558	2,191,016,650
遺族基礎	274	211,490,009	254	195,383,441	272	207,258,300
寡婦年金	55	25,762,742	40	18,091,099	36	16,150,887
遺族年金計	329	237,252,751	294	213,474,540	308	223,409,187
合計	45,637	30,972,318,508	45,751	31,248,148,891	45,827	31,511,629,965
死亡一時金	26	3,729,000	20	2,817,000	31	4,704,000